

第七次中期経営計画（令和2年度～4年度）

令和3年度の取り組み状況について

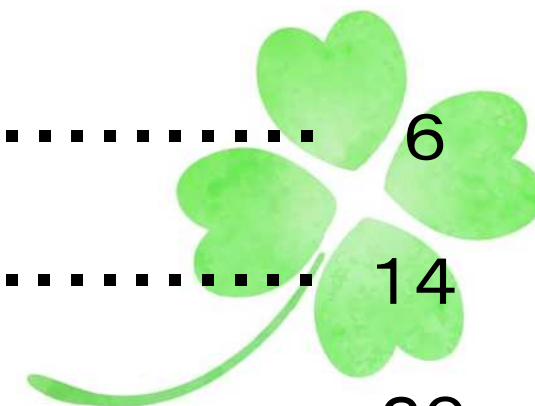


みやぎ仙南農業協同組合



目次

第七次中期経営計画とSDGs	1
第七次中期経営計画の位置づけ	2
令和3年度の取り組み状況について		
I. 農業者の所得増大・農業生産の拡大	6
II. 豊かな地域社会の創造	14
III. 地域を支えるJA経営基盤の確立	20



第七次中期経営計画とSDGs



SDGsは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すという**国際目標**です。上記の17の項目で構成されています。“持続可能な”とは、「将来の世代のための環境や資源を壊すことなく、今の生活をより良い状態にしていく」とのことであり2030年まで取り組みが進められます。発展途上国のみならず、先進国、国だけではなく各企業、各個人においてもこの考え方に多くの賛同され取り組みが広がっており、**JAグループにおいても賛同**を表明しています。

**JAグループ
SDGs取組宣言**

わたしたちJAグループは、
「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に賛同し、
その達成に向けて、事業・活動に取り組みます。




JAグループは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

〈出典：JA全中HPより〉

第七次中期経営計画にも **SDGs**
の考えが取り入れられています

第七次中期経営計画の位置づけ

当組合の基本理念の実現へ向けて、第七次中期経営計画の基本方針「組合員と共に創る農業・地域の未来～JA自己改革へのさらなる挑戦～」のもと、基本目標である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「豊かな地域社会の創造」「地域を支えるJA経営基盤の確立」に向け、12項目の重点実施事項に基づく26項目の具体的な取り組みを進めています。

【JAみやぎ仙南コンセプト(基本理念)】

「食」と「農」を未来へつなぎ、豊かなくらしと心を育み、
夢と笑顔の溢れる地域づくりに貢献します。

第七次中期経営計画(令和2年度～令和4年度)

基本方針 「組合員と共に創る農業・地域の未来～JA自己改革へのさらなる挑戦～」

基本目標

「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」

「豊かな地域社会の創造」

「地域を支えるJA経営基盤の確立」

重点取り組み事項12項目に基づく26項目の具体的な取り組み

第七次中期経営計画の位置づけ



基本目標Ⅰ 「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」

重点実施事項

1. 地域の特性を生かした担い手の確保と育成
2. 地域営農ビジョンの策定・実践による農業所得の拡大
3. 担い手経営体のニーズに応える個別対応の強化
4. 園芸振興などマーケットインに基づく農業生産の拡大
5. 地域農業の振興に資する営農指導体制の強化

具体的な取り組み事項

- 新規就農者の育成・支援
地域営農を担う生産組織(集落営農・農業法人)及び組織化支援
- 中期経営計画実践を支える地域営農ビジョンの策定と情報共有
- 農業生産の省力化・低コスト化へ向けた更なる取り組み
担い手経営体に対する個別支援の充実
農業関連総合相談と担い手支援機能強化による農業者の所得増大の継続した実施
- 需要に応じた米づくりによる生産振興
園芸振興による農業生産の拡大
畜産振興による農業生産の拡大
顔とくらしの見える産直(産消提携活動)を通じた相互理解の更なる発展
- 「農業所得の増大」「農業生産の拡大」を担う営農指導体制の整備
営農指導員の確保と資質の向上

第七次中期経営計画の位置づけ

基本目標Ⅱ 「豊かな地域社会の創造」



重点実施事項

1. 組合員のアクティブ・メンバーシップの確立
2. 地域協同活動の推進
3. JAらしの活動を通じた地域コミュニティの活性化
4. 組合員・利用者の期待に応える総合事業の展開

具体的な取り組み事項

- JAファン・仲間づくりのためのアプローチ
准組合員の「農」に基づく加入時説明の徹底と意思反映、運営参画
- 少子高齢化対策のため世代間交流を含めた次世代利用者へのPRイベントの開催
地区事業本部ごとの特色を生かした協同活動の展開
- 地域の多様な組織との連携及び生活インフラ、食農を機軸とした複合サービス、拠点の提供
- 利用者に寄り添った提案と相談業務の強化
手元で簡単・便利に取引できるインターネット、スマートフォンアプリによる便利機能の提供
総合事業の強みを最大限活かしたJAらしいサービスの提供
部門間連携による総合事業利便性の発揮

第七次中期経営計画の位置づけ

基本目標Ⅲ 「地域を支えるJA経営基盤の確立」



重点実施事項

1. 自己改革の実践を支える持続可能なJA経営基盤の確立・強化
2. 自己改革の実践を担う人材の育成と活力ある職場づくり
3. 組合員の信頼にこたえるコンプライアンス態勢の充実強化

具体的な取り組み事項

- 自己改革の取り組み継続と事業部門ごとの基盤確保に向けた経営シミュレーションの強化
- 問題解決型研修会による活力ある職場づくり
部門間における情報共有
人材育成基本方針の見直しと人事制度の再構築
- 内部統制の維持強化と信頼と絆の向上プランに変わる取り組みの実践



令和3年度の取り組み状況について

I. 「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」

令和3年度の取り組み状況について

1. 地域の特性を生かした担い手の確保と育成

具体的な取り組み事項

【新規就農者の育成・支援】

- ・政策支援新規就農者については、勉強会参加者や巡回面談者のリストを作成し、市町と連携し巡回相談対応を行いました。
- ・TACの訪問対象に新規就農者及び新規設立法人等13(うち法人3)経営体を選定し、定期的に巡回相談を実施しました。

【地域営農を担う生産組織(集落営農・農業法人)及び組織化支援】

- ・令和4年3月11日に「JAみやぎ仙南農業法人会」を設立し研修会と意見交換会を行いました。
- ・農業共済組合と連携し収入保険の加入啓発に取り組みました。令和4年加入実績277経営体(うち法人経営体37)。
- ・法人化支援については、圃場整備事業に取り組んでいる地区のニーズに基づき支援しました。
- ・定年帰農者等を対象とした丸森農業創造センターとの共催による農業チャレンジ研修を行いました。



I. 「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」

令和3年度の取り組み状況について

2. 地域営農ビジョンの策定・実践による農業所得の増大

J A みやぎ仙南
地域営農ビジョン

具体的な取り組み事項

【中期経営計画実践を支える地域営農ビジョンの策定と情報共有】

・7地区事業本部ごとのビジョンを策定し、随時更新するとともに情報共有に関する支援を行いました。



I. 「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」

令和3年度の取り組み状況について

3.担い手経営体のニーズに応える個別対応の強化

具体的な取り組み事項

【農業生産の省力化・低コスト化へ向けた更なる取り組み】

- ・作付転換営農継続支援事業の活用により 農業機械を導入し機械化一貫体系を確立しました。トラクター(茎葉処理用)パレットフォーク、剪葉機の導入
- ・肥料の銘柄集約、農薬の大型規格及び直送により、延べ2,500.3畝(前年1,878.4畝、621.9畝増)の面積対応となりました。
- ・生産資材価格低減については、大口奨励・肥料高騰特別対策等に取り組みました。
- ・令和3事業年度 施設園芸省エネ化緊急対策事業(国)の活用による省エネ推進に取り組みました。
参加人数42名、事業費19,152,981円(補助金9,891,622円)、実施面積1,159.1a
- ・低コスト農機の普及については、目標とした3台の供給を達成しました。

【担い手経営体に対する個別支援の充実】

- ・農業労災保険の周知及び加入促進、事務支援 指定農業機械従事者291人、特定農作業従事者314人、計605人(前年対比▲31人)
- ・農業経営管理支援事業の利用は50経営体となりました。
- ・経営継続補助金の申請支援に取り組みました。



産地化
を目指します！



(千円)

主要作物	R 2	R 3	前年対比
玉ねぎ	5,321	5,360	101%
長ネギ	16,639	14,861	89%
ブロッコリー	34,239	34,485	101%
販売高	56,199	54,706	97%

I. 「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」

令和3年度の取り組み状況について

4. 園芸振興などマーケットインに基づく農業生産の拡大

具体的な取り組み事項

【需要に応じた米作りによる生産振興】

- ・栽培マニュアルを作成し、こだわり米(1,285[㌧]、[㌧])、ふるさと安心米(879[㌧])の生産に取り組みました。
- ・実需者ニーズに応える作付け誘導として業務用の作付け誘導をはかり、前年対比95.1%、15,108袋の集荷となりました。
- ・作況指数100(前年は102)となり、集荷実績は前年産を下回る結果となりました。486,153袋(上位等級90.77%) 前年:492,487袋(上位等級85.92%)
- ・買取米については担い手対策の一環として、集荷対策における「戦略的買取販売」と位置付け、引き続き推進を図りました。実績15,043俵 前年:19,041俵



(袋)

項目	R2	R3	前年対比
業務用米生産拡大	15,889	15,108	95%

【園芸振興による農業生産の拡大】

- ・重点品目8品目、推進品目3品目の生産振興に取り組みました。
- ・果樹凍霜害対策を実施しました。(県への申請支援・当JA支援事業)
- ・補助事業等を活用した園芸振興(園芸用パイプハウス等の導入)、圃場・施設の復旧、増収へ向けた新たな技術の導入の支援を行いました。
- ・令和3年度TAC園芸作物推進により生産振興に取り組みました。8品目、延べ12名。助成額2,030,898円(対象面積564a)

面積 (a)

品目	計画	実績	うち新規拡大
玉ねぎ	60	60	60
長ねぎ	160	142	62
ブロッコリー	202	202	82

I. 「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」

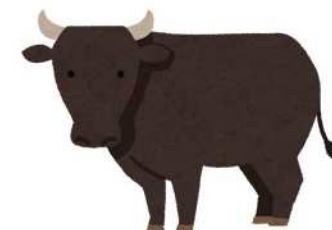
令和3年度の取り組み状況について

4. 園芸振興などマーケットインに基づく農業生産の拡大

具体的な取り組み事項

【畜産振興による農業生産の拡大】

- ・全農、畜産協会等の事業を活用するとともに、JA独自の生産対策推進事業を設定し、優良雌牛、優良肥育素牛等の導入を進めました。
- ・16回の共進会等主催および参加によって、仙台牛率アップの取り組みをすすめました。
- ・仙台牛率は63%となり、2024年到達目標である55%を上回りました。
- ・補助事業等を活用し仙台牛のブランド確立に努めました。
- ・畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（生産基盤拡大加速化事業、繁殖雌牛増頭事業）の活用
18経営体、54頭増頭、補助額12,503千円（畜産クラスター事業）



R3年度導入実績	導入数	経営体
優良雌牛	54	18
肥育素牛	30	11

I. 「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」

令和3年度の取り組み状況について

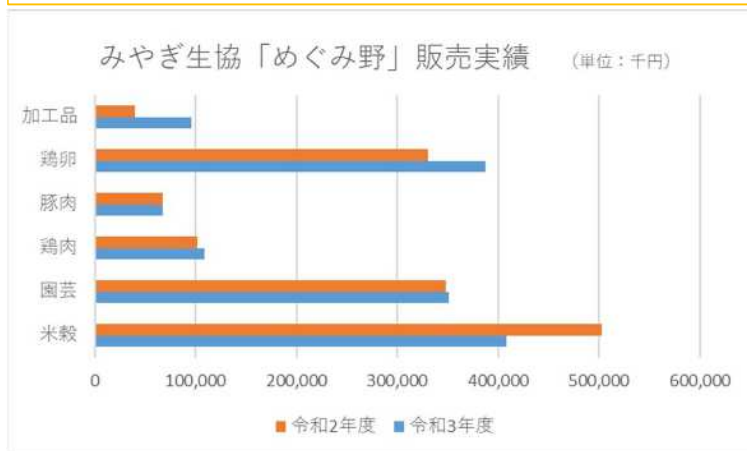
4. 園芸振興などマーケットインに基づく農業生産の拡大



具体的な取り組み事項

【顔とくらしの見える産直(産消提携活動)を通じた相互理解の更なる発展】

・生産者と消費者の食に対する思いを結ぶことで幸せを分かち合う「産消直結」の取り組みによって、めぐみ野の取り組み(米・園芸・畜産・加工等)取扱総額は1,419,362千円となりました。



みやぎ生協「めぐみ野」取扱高

	(単位:千円)		
	令和2年度	令和3年度	前年対比(%)
米穀	502,895	408,231	81%
園芸	348,064	350,676	101%
鶏肉	101,784	109,169	107%
豚肉	67,270	67,528	100%
鶏卵	330,915	387,680	117%
加工品	39,884	96,078	241%
合計	1,390,812	1,419,362	102%



I. 「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」

令和3年度の取り組み状況について

5. 地域農業の振興に資する営農指導体制の強化

具体的な取り組み事項

【「農業所得の増大」「農業生産の拡大」を担う営農指導体制の整備】

・穀物乾燥調製貯蔵施設(カントリーエレベーター)

令和3年9月 施設利用を開始しました。運用初年度は、目標を上回る事業量を確保、大きな問題はなく順調に運営しています。稼働状況については41%となっています。

主食用米10,743袋、保有米1,042袋、飼料用米6,190袋

・流通センター委託費については、配送の平準化を図り、配送台数の削減による経費削減に努めました。



角田市にCE完成 台風19号復興の象徴に



完成したカントリーエレベーター
(宮城県角田市)

JAみやぎ仙南

【みやぎ仙南】JAみやぎ仙南が角田市に建設を進めていた穀類乾燥調製貯蔵施設(カントリーエレベーター、CE)が完成し、5

日、竣工(しゅんこう)落成式を開いた。2019年の台風19号で角田市、丸森町の組合員田が甚大な被害を受けたことから、復旧を目指して建設した。被災した組合員や担い手の規模拡大の受け皿となることや飼料用米拡大への取り組み、農業経営の合理化などを目指し「強い農業・担い手づくり総合支援交付金」の補助事業を活用した。総事業費は約10億8000万円、鉄骨造り2階建てで延べ床面積約12222平方メートル。丸形貯蔵乾燥ビン315メートルを6基、150メートルを2基備え、貯蔵能力は生もみ換算で約2100トンを超える。宮城県内では初となる、穀物の重さを搬入車両ごと計測できる穀類のトラックスケール方式を採用した。式典には西村明宏衆議院議員や角田市の黒須賀市長、丸森町の保科雄雄町長をはじめ関係者55人が出席。JAの舟山健一組合長は「300名の活用を目指す。台風からの復興のシンボルとして落成を迎えられ関係者に感謝する」と話した。

2021年9月7日(火) 日本農業新聞 ワイド1東北 11ページ

I. 「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」

令和3年度の取り組み状況について

5. 地域農業の振興に資する営農指導体制の強化

具体的な取り組み事項

【営農指導員の確保と資質の向上】

- ・管理表の精度を高め、人事教育部門と連携し資格取得や研修受講を計画的にすすめました。
- ・営農指導員のレベル向上を目的に参加した「令和3年度JA営農指導実践宮城県大会」において最優秀賞を受賞しました。
- ・栽培講習会(現地検討会R3.7.8)、生育調査(肥料試験6.10～7.20の5日間、7人18圃場、508.2a)、農産物検査員研修派遣等を実施しました。
- ・営農関係職員の各種必要資格の取得をすすめました。



この人

21年度JA営農指導実践県大会で最優秀賞
8月27日に開かれた2021年度JA営農指導実践県大会で、JAみやぎ仙南が取り組む、みやぎ生協との顔とくらしの見える産直活動について発表。見事、最優秀賞に輝いた。12月に開かれる北海道・東北大会(動画審査)に県代表で出場する。



北海道・東北大会に向けて意気込む蓬田さん

よもぎだ けん と
蓬田 健人さん

(JAみやぎ仙南)

2015年にJAみやぎ仙南に入組して7年目。管理部門で1年半、経営関係の業務に携わり、園芸課の産直担当としては5年目だ。担当する6部会の生産者や販売先との対話を重視し、インターネット交流サイト(SNS)や、独自の事務連絡文書の活用などで生産ロスを大幅に削減。生産者の生産意欲向上を図っている。

「これからも生産者を第一に考えながら、今後多様な担い手が活躍する場となっていく産直活動を盛り上げ、仙南を魅力ある産地にしていきたい」と話す。

石川豊課長は「今後も生産者との思いを一つに、産地の維持・発展、農家所得の向上・安定に向けて取り組みを進めてもらいたい」と期待する。26歳。(みやぎ仙南)

2021年9月8日(水) 日本農業新聞 県版宮城 12ページ

Ⅱ. 豊かな地域社会の創造

令和3年度の取り組み状況について

1. 組合員のアクティブメンバーシップの確立

具体的な取り組み事項

【JAのファン・仲間づくりのためのアプローチ】

- ・チラシを作成し、他部門のイベント等にて金融共済事業にかかる商品のPRを行いました。
- ・3Q訪問活動による保障点検・提案、情報提供を行い総合保障の提供に取り組みました。

【准組合員の「農」に基づく加入時説明の徹底と意志反映、運営参画】

- ・令和3年度准組合員加入者280名に対してアンケートを実施しました。
アンケートの回収率は81.4%となり、38名から参画希望との声を頂きました。

【対話としての組合員訪問活動の継続】

- ・12月に組合員訪問活動を実施しました。
訪問12,609先のうち有効面談数は8,495先であり、
事業活動に対するご意見等を頂きました。



Ⅱ. 豊かな地域社会の創造

令和3年度の取り組み状況について

2. 地域協同活動の推進

具体的な取り組み事項

【参加型イベントへの取り組み】

・JA共済少年野球大会(全共連)中止に伴い、管内の参加予定チーム21チームに対し精米5キロ×選手人数分(監督含む)を寄贈しました。

【地区事業本部毎の特色を生かした協同活動の展開】

- ・各地区単位での地域活性化活動
→支店前ミニ農園、落語、交通安全啓蒙、地域清掃等、地域社会の拠り所となるべく各地区で特色ある活動を展開しました。
- ・地区広報活動の充実
→情報発信リーダーの投稿数順調に増加しており、情報共有に対する意識の高まりが見られました。
→地区だよりについてはコンクールを実施し、地域への発信に向け目線の共有とスキル向上に取り組みました。



少年野球へ米贈呈
来年へ力付けて

JAみやぎ仙南

【みやぎ仙南】JAみやぎ仙南は、管内の少年野球チームに宮城県産「ひとめぼれ」を贈った。少年野球チームを代表し、しばたE.T.フェザンツの佐久間寛団長が13日、柴田町の本店で舟山健一組合長から米を受け取った。新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、今年度は開催できなかった。佐久間団長は「来年は必ず開催されることを期待している」と激励した。



佐久間団長(左)に「ひとめぼれ」を手渡す舟山組合長
(宮城県柴田町で)

2021年9月22日(水) 日本農業新聞 ワイド1東北 11ページ

Ⅱ. 豊かな地域社会の創造

令和3年度の取り組み状況について

3. JAくらしの活動を通じた地域コミュニティの活性化

具体的な取り組み事項

【地域の多様な組織との連携および生活インフラ、食農を機軸とした複合サービス、拠点の提供】

- ・高齢者福祉への取り組みとして金融部にて認知症キャラバンメイトへの登録(1名)を行いました。
- ・職員16名が熱中症対策アドバイザーの資格を取得し、各イベントにおいて熱中症予防の呼びかけを行いました。
- ・女性大学、女性大学OG会、こども大学、農業体験を柱にイベントを開催しました。
- ・グリーンカーテンや子供向け企画の野菜クイズなども行っており、食と農を結ぶイベントを開催することで生涯学習の場を提供するとともに農業に対する理解を深めることができました。



認知症サポーター養成にも
力を入れています



認知症サポーターがいます

員21人が熱中症対策アドバイザーの講習を受講。アドバイザーの活動の一環で実施し、大塚製薬が協力した。駐車場利用者に事前に引換券を郵送し、同駐車場の他、本店でも配布した。



熱中症予防用品を紹介するアドバイザー（宮城県柴田町で）

2021年度、役職を呼び掛けた。

【みやぎ仙南】JAみやぎ仙南は3日、JAが管理する柴田町の船岡駅前駐車場利用者に、凍らせて飲む「ポカリスエットアイススラリ」などの熱中症予防用品を贈り、対策を呼び掛けた。

駐車場利用者に熱中症予防用品

JAみやぎ仙南

2021年9月11日(土) 日本農業新聞 ワイド2 東北 10ページ

Ⅱ. 豊かな地域社会の創造

令和3年度の取り組み状況について

3. JAくらしの活動を通じた地域コミュニティの活性化



具体的な取り組み事項

【地域の多様な組織との連携および生活インフラ、食農を機軸とした複合サービス、拠点の提供】

- ・活動の内容を広くお知らせするためにSNSの活用にも取り組んでおり、インスタグラムの公式アカウントを開設しました。
- ・地域コミュニティとの連携活動のため、新たな取り組みとしてJA出張講座を開始しました。



2021年7月21日(水) 日本農業新聞 県版宮城 12ページ

Ⅱ. 豊かな地域社会の創造

令和3年度の取り組み状況について

4. 組合員・利用者の期待に応える総合事業の展開

具体的な取り組み事項

【利用者に寄り添った、提案と相談業務の強化】

- ・本店にライフプランインストラクターを2名配置し金融渉外との同行推進活動を行いました。
- ・3Q訪問活動を通じ既加入世帯未加入者、未加入世帯への保障提案活動を実施し保障拡充を図りました。
- ・ローン相談会(相談111件)、年金相談会(相談79件)を各地区で開催しました。

【手元で簡単・便利に取引できるインターネット、スマートフォンアプリによる便利機能の提供】

- ・金融部門ではネットバンク等を重点セールス項目とし、総合的な提案を行いました。
- ・共済部門では契約者に対してWebマイページの登録提案を行いました。



4. 組合員・利用者の期待に応える総合事業の展開

具体的な取り組み事項

【総合事業の強みを最大限活かした、JAらしいサービスの提供】

- ・各種相談会・キャンペーンで当JA管内の農産物を金融商品の記念品として使用し農産物もPRを行いました。
- ・(株)ローソン銀行と提携し「道の駅かくだ」へ共同の現金自動預払機(ATM)を設置しました。

道の駅に共同ATM

JAみやぎ仙南
(株)ローソン銀行

JAみやぎ仙南と(株)ローソン銀行は1日、「道の駅かくだ」に共同の現金自動預払機(ATM)を設置した。JAバンクグループとローソン銀行の共同ATMが設置されるのは東北で2例目。

全国の金融機関と提携するローソン銀行との共同ATMの設置で、近隣住民のみならず、観光客など幅広い来店者を受け入

れる道の駅の総合的な利便性の向上につなげていく。一方、JAバンク利用者に対しては、4月末まで、道の駅内で使える割引クーポンが発行できるなどJAならではの機能も加えた。

JAの舟山健一組合長は「利便性の向上はもちろんのこと、地域の活性化にも貢献できればと思う」と話した。

(みやぎ仙南)

2022年3月9日(水) 日本農業新聞 県版宮城 12ページ



ATMを利用する舟山組合長



Ⅲ. 地域を支えるJA経営基盤の確立

令和3年度の取り組み状況について

1. 自己改革の実践を支える持続可能なJA経営基盤の確立・強化



具体的な取り組み事項

【自己改革の取組継続と事業部門ごとの基盤確保に向けた経営シミュレーションの強化】

- ・今後、「収益性」「信用リスク」「市場リスク」「流動性リスク」観点から監督行政によるモニタリングが実施される見通しとなっています。持続可能な収益性と将来にわたる健全性に着目し、経営シミュレーションを作成しております。
- ・総務管理部門委員会で検討している「固定資産活用方針に基づく処理計画」に基づき、計画的に不稼働資産の解体、売却、再利用等を進めました。(旧耕野支所売却)
- ・共済連より災害時に配布できる緊急物資等(長期保存対応食品・飲料水・蓄電池・ソーラーパネルなど)の提供があり、各地区事業本部に備置しました。
- ・令和3年1月丸森町と「災害時における避難者受入れに関する協定書」を締結しました。(丸森農業倉庫)



2.自己改革の実践を担う人材の育成と活力ある職場づくり

具体的な取り組み事項

【問題解決型研修会による活力ある職場づくり】

- ・金融課長会議、金融渉外担当者会議、その他担当者研修会を開催し事務レベル向上に努めました。
- ・受講者が研修会リーダーとなり、課内での情報共有化を図り業務及び推進活動を行いました。

【部門間における情報共有】

- ・金融渉外と共済渉外の情報共有によりお客様ニーズに基づいた商品の提案を行いました。

【人材育成基本方針の見直しと人事制度の再構築】

- ・昨年度作成した職員資格取得指針に基づき部門横断的に取得すべき資格について運用しました。
- ・職員の考え、思いを役員が直接ヒアリングする常勤役員との個別面談を実施しました。
- ・賃金体制について、平成17年以来となる給与表の改定を行うために見直し・整理を行いました。

【内部統制の維持強化と信頼と絆の向上プランに代わる取り組みの実践】

- ・不祥事未然防止の姿勢を強調すべく「不祥事ゼロ運動」を展開しました。
- ・不祥事防止対策として全国的に取り組まれている組合員組織等の事務受託について、要領の見直しを行い、事務フローイメージを作成し運用を実施しました。





ひとめぼれ
ササニシキ
つや姫
だて正夢
etc...



梨・イチゴ・きゅうり
玉ねぎ・長ネギ・生花
ブロッコリー etc...



仙台牛の里
めぐみ野豚
めぐみ野たまご



実り豊かな仙南の農業